

# 四七日

よなぬか

浄土真宗の宗祖・親鸞聖人は一一七三年、京都の日野でお生まれになり、九歳で出家得度。そして二〇年間、比叡山で学僧として修行され、下山して京都市内の六角堂で百日参籠され、夢のお告げで法然上人の門下生になられました。それもこれも、比叡山での修行生活に絶望され、すべての人びとが平等に救われる道を求めつづけてこられたからです。お念仏ひとつで救われるという、専修念仏の法然上人に

## 親鸞聖人

あわれたのは、二十九歳のときでした。以来、越後や関東での生活、

そして京都に戻られて九十歳で往生されるまで、ひたすら、お念仏の道を入びとに説きつづけられました。



関東時代の有名な伝説があります。ある吹雪の舞う夜、親鸞聖人が左衛門という下級武士に一夜の宿を乞うたところ、邪険に断られて、しかたなく門口で野宿されたといえます。ところがその夜、左衛門の夢枕に観音さまがあらわれて、いま門前に阿弥陀如来がお見えになっていると。おどろいて表に出た左衛門は、石を枕に雪の中でお念仏をとなえておられる親鸞聖人を見て前非を悔い、親鸞聖人の説くお念仏の道に入って名を道円と改めたといのです。親鸞聖人の伝道の旅のご苦勞を偲ぶことができるエピソードです。